

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26892] 抗Mi-2抗体
- [26895] 抗TIF1- γ 抗体

受託開始日

- 平成28年11月22日 (火)



抗Mi-2抗体／抗TIF1- γ 抗体

この度、弊社では標記2項目の自己抗体検査の受託を開始致します。

自己免疫性筋炎には横紋筋を広範に障害する炎症性筋疾患である多発性筋炎 (Polymyositis ; PM) と皮膚症状を伴う皮膚筋炎 (Dermatomyositis ; DM) があり、一般にPM/DMと表されますが、この度受託を開始する二つの検査はDMの診断に有用とされており、本年10月1日付で新規に健康保険適用になりました。

【抗Mi-2抗体】

1976年にReichlinらによりDM患者の血清中に認められた自己抗体で、名称は患者の頭文字に由来します。DMのおよそ5～33%に認められるとされており、無筋症性皮膚筋炎 (CADM) や他の自己免疫疾患で陽性になることは稀であり、DMに非常に特異性の高い自己抗体です。

本抗体陽性のDM患者はGottron徴候やヘリオトロープ紅斑などの典型的な皮膚症状が認められ、治療反応性がよく予後良好な症例が多いといわれています。

【抗TIF1- γ 抗体】

DM患者のおよそ2～3割に認められるといわれ、抗核抗体検査の染色型としてはspeckledまたはhomogenousが対応しますが、比較的低力価にとどまるといわれています。

抗Mi-2抗体と同様に他の自己免疫疾患で陽性になるケースは少ないとされていますが、悪性腫瘍合併のDMで高頻度で認められ陽性率は50～75%という発表もあります。

また、小児DMの2～3割が本抗体陽性とされ、現状で行われている自己抗体検査で最も高い陽性率を有していると考えられており、本抗体陽性の小児DMはGottron徴候や皮膚潰瘍などの皮膚徴候が顕著であるといわれています。なお、小児DMにおいては悪性腫瘍との関連はないとの報告があります。

検査要項

項目コード	26892	26895
検査項目名	抗Mi-2抗体	抗TIF1- γ 抗体
検体量/保存方法	血清 0.3 mL / 冷蔵	同左
検査方法	EIA	同左
基準値	陰性(－) インデックス値 53 未満	陰性(－) インデックス値 32 未満
所要日数	2～8日	同左
検査実施料	270点 ^{*1, 2} ([D014] 自己抗体検査 [26] 抗Mi-2抗体)	270点 ^{*1, 2} ([D014] 自己抗体検査 [26] 抗TIF1- γ 抗体)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)	同左
備考	*1：厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において測定した場合に算定できます。 *2：「抗MDA5抗体」、「抗Mi-2抗体」、「抗TIF1- γ 抗体」と区分番号 [D014] 自己抗体検査の「9」から「14」までおよび「17」に掲げる検査を2項目または3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらずそれぞれ320点または490点を算定できます。	

参考文献

- 室 慶直：医学のあゆみ 239 (1)：83-87, 2011.
佐藤慎二：リウマチ科 55 (2)：227-233, 2016.